

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	吉田 好美 【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】 (平成24年3月単位修得退学)	<p>本論文では、日本語母語話者（以下 JNS）とマナド語母語話者(以下 MNS)を対象として、母語場面で同等関係における断りの比較対照を通して、それぞれの断りの特徴を明らかにし、異文化間コミュニケーションへの示唆を得ることを目的とした。</p> <p>分析の結果、JNS は断りの表出までに、積極的な態度を表出したり、時間稼ぎをして回避したりしながら(研究Ⅰ)、「間接的断り」で手短かに断りを表現することが分かった(研究Ⅱ)。また、断りが表出されると、その断りがどのような内容であってもなるべく早く受諾される(研究Ⅲ)。断りが早く受諾されるため、第2の断り以降の出現はほとんどなく、断りの連鎖もあまりない(研究Ⅳ)。また、その断りがどのような内容であっても受諾されるため、会話の収束が早いことが示唆された(研究Ⅴ)。</p> <p>一方、MNS は、情報要求を多用することで、相手の働きかけに対して積極的に関わり(研究Ⅰ)、JNS よりも複数の機能を使用して具体的に断りを表現し、断りを伝達している(研究Ⅱ)。また断りが表出されてからは、再勧誘されながら複数回の断りを表出する(研究Ⅲ)。断りが複数回表出される場合には、「付随表現」と「間接的断り」の組み合わせを使用して、「付随表現」を減少させ、「間接的断り」を中核として断りを進め(研究Ⅳ)、最終的には、説得を用いるか意味公式使用数を増加させて、断りの意図を伝達し、会話を収束に向かわせることが示唆された(研究Ⅴ)。</p> <p>審査会では、様々な観点から断りを包括的に捉えることに成功し、異文化間コミュニケーションへの示唆に富む研究であると高く評価された。またインドネシアで収集した実際の発話をデータとし、実証的な分析が行われている点についても評価された。</p> <p>第1回目の審査会で、審査委員から先行研究に関する記述の不十分さや分析の観点に関して修正意見が出されたが、これらに対しては適切に修正がなされたことが第2回審査会において確認された。公開発表およびその後の最終試験における質疑応答にも満足すべき応答が得られた。</p> <p style="text-align: center;">以上の結果から、本審査委員会は、最終試験に合格し、博士(人文科学: Ph. D. in Applied Linguistics)として認定するに値すると全会一致で判断し、合格とした。</p>
論文題目	勧誘に対する断りの研究 －日本語母語話者とマナド語母語話者の比較－	
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	教授 高崎 みどり	
	教授 森山 新	
	教授 加賀美 常美代	
	教授 戸谷 陽子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (<input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	